

第2部 ボランティア・市民活動の推進

I 令和6年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

令和6年度の市民活動支援センター（以下、センターという）は、「2023～2027 市民活動支援センター中長期運営方針」（以下、「中長期運営方針」という）に基づき、日常の相談業務や様々なイベントの実施を通じて、個人、団体や企業など様々な主体と協働しながら、市民に開かれたセンター運営に努めました。

2年目を迎えた第11期の運営委員会では、センターの役割や機能についての議論を進めると同時に、「子ども」、「50代」、「高齢者」という3つの年齢層の抱える地域課題についても議論を重ねました。その議論を通じて得られた課題意識を、「えんがわフェスタ」において市民と共有することで、「中長期運営方針」の基本理念である「市民が主役の住み続けたいまちづくり」、「未来に希望の持てる社会の実現」への種を蒔くことができました。

第2 重点項目の総括

1 中長期運営方針の5本の柱に対応したセンター運営

- ① 「市民の地域参加の推進」については、「サマーボランティア」、「出前講座」などのプログラムや、実行委員会形式で企画される「まち活フェスタ」などのイベントを通じて、今後、ボランティアや市民活動を担う人材の発掘と育成を行いました。
- ② 「パートナーシップの強化」については、センターはもとより各ブランチにおいて、日常的な相談場面や事業を通じて、ボランティア、NPO、学校、行政等様々な機関と連携しながら、協働を推進しました。
- ③ 「えんがわファンドによる寄付文化の醸成」については、引き続き、「ちょうふチャリティーウォーク」を共催するなど、その普及・啓発に努めました。「えんがわファンド」への助成を希望する団体も増加傾向にあります。一方で、「えんがわファンド」自体の認知度を向上させることは、引き続き、センターにとって重要な課題です。
- ④ 「居場所やサードプレイスの周知と推進」については、運営委員による「居場所探訪プロジェクト」を通じて市内外の居場所を訪問し、活動内容や運営実態についての聞き取り調査を行いました。また、そこで得られた知見を市民と共有する機会として、報告会「どうやってそこは＜居場所＞となったのか」を実施しました。
- ⑤ 「災害時に備えた支え合いの醸成」については、近隣自治体社協間（小金井市、狛江市、府中市、三鷹市、調布市）で「北多摩南部ブロックにおける災害ボランティアセンターの設置・運営に関する相互応援協定」を締結するなど、発災に備えた体制作りを進めることができました。

Ⅱ 個別事業

第1 センター及びボランティアコーナー（ブランチ）の運営

番号	事業名	財源			
(1)	市民活動支援センターの受託・運営	自主	補助	委託	事業
				市	○

番号	事業名	財源			
(2)	ボランティア活動推進	自主	補助	委託	事業
		会寄雑 基	市		○

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 令和5年度から18人体制で運営委員会をスタートしたが、任期途中に1人の退任があり令和6年度は17人体制となった。
- 令和4年度に策定した「2023～2027 中長期運営方針」に沿いながら、令和6年度は全11回の運営委員会を開催し議論を行った。
- 令和3年10月から令和6年6月まで約2年半にわたり、運営委員が居場所を運営している20の団体や組織を訪問し、活動内容や運営実態について聞き取り調査を実施した「居場所探訪プロジェクト」の成果を市民に還元・共有する目的で、「居場所探訪プロジェクト報告会 どうやってそこはく居場所>になったのか」を開催した。
- 令和6年度末で任期満了に伴い5人の運営委員が退任となり、新たに5人の運営委員を選任した。

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏 名	選出区分	主な活動、所属等
水田 征吾（委員長）	ボランティア	個人ボランティア
横山 真理（副委員長）	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば
原島 秀一（副委員長）	企業・労働組合	税理士事務所
安藤 雄太	学識経験者	
村上 むつ子	市民活動団体	Global 調布！
平澤 和哉	市民活動団体	NPO 法人ちょうふこどもネット
石井 洋子	市民公募	
阿部 秀樹	市民公募	
浜本 雅樹	市民公募	
石正 房江	市民公募	
毛利 勝	ボランティア	個人ボランティア
ニンファジャヤマーンナ	ボランティア	個人ボランティア
小松 明日香	ボランティア	個人ボランティア

第2部 ボランティア・市民活動の推進

佐竹 澄子	関係機関	東京慈恵会医科大学（医学部看護学科講師）
吉田 真也	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
松谷 知彦	行政関係	調布市生活文化スポーツ部協働推進課長補佐
田村 敦史	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和6年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月21日	【承認事項】 ・令和5年度事業報告（案）と資金収支決算報告（案）の承認手順について 【協議事項】 ・今期の各グループの取り組みについて 【報告事項】 ・居場所探訪PJについて ・災害ボランティア養成講座の実施結果について
第2回	5月25日	【承認事項】 ・令和5年度事業報告（案）の承認 ・令和5年度資金収支決算報告（案）の承認 【協議事項】 ・今期の各グループの取り組みについて 【報告事項】 ・居場所PJについて
第3回	6月19日	【共有事項】 ・令和5年度事業報告・資金収支決算報告について ・苦情・事故報告 【協議事項】 ・えんがわフェスタに向けて 【報告事項】 ・居場所探訪PJについて
第4回	7月20日	【協議事項】 ・今期の各グループの取り組みについて 【報告事項】 ・居場所探訪PJについて
第5回	9月15日	【報告事項】 ・コミュニティルームについて 【協議事項】 ・えんがわフェスタにむけて 【共有事項】 ・ちょうふチャリティーウォークについて ・サマーボランティアについて ・第11回調布まち活フェスタについて

		・居場所探訪PJについて
第6回	10月19日	【協議事項】 ・えんがわフェスタについて 【報告事項】 ・コミュニティルームについて
第7回	11月12日	【報告事項】 ・センター職員の配置状況について ・センターの利用時間について 【協議事項】 ・えんがわフェスタについて
第8回	12月21日	【報告事項】 ・この間の市民活動支援センターの動向について 【協議事項】 ・えんがわフェスタについて
第9回	1月17日	【報告事項】 ・この間の市民活動支援センターの動向について 【協議事項】 ・えんがわフェスタについて
第10回	2月15日	【報告事項】 ・この間の市民活動支援センターの動向について ・来期の運営委員について 【承認事項】 ・令和7年度事業計画（案）の承認 ・令和7年度予算（案）の承認 【協議事項】 ・えんがわフェスタについて
第11回	3月22日	【報告事項】 ・この間の市民活動支援センターの動向について ・市民活動支援センター次期運営委員について ・令和7年度の職員体制について 【承認事項】 ・令和7年えんがわファンド選考委員の承認について 【協議事項】 ・第11期運営委員会の振り返り

分析・課題

○運営委員会では、より開かれたセンター運営を目指し、会議の開催日程や時間帯を工夫した。

○年度の途中から、センターからの報告の時間を設けることにより、委員会の中で、センター運営そのものを議論できるように努めた。

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

○利用者会議は行わず、利用者アンケートを行った。

分析・課題

○はばたきを利用している団体に、どのような人が所属しているのか、確認することができた。はばたきのレイアウト変更を行ったことで、様々な意見を伺うことができた。課題として、団体同士の交流を後押しすることで、良い効果が生まれるようつながりを支援していく必要がある。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

○地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。

実績等

加入口数	令和6年度	令和5年度	令和4年度
一口／3,000円	69口	86口	64口
	207,000円	259,000円	192,000円

サポーター会員数	令和6年度 実数（人）	令和5年度 実数（人）	令和4年度 実数（人）
団体	32	38	38
個人	21	21	17
匿名	0	0	0

新規・継続内訳	令和6年度 実数（人）	令和5年度 実数（人）	令和4年度 実数（人）
新規サポーター	1	2	1
継続サポーター	52	57	54
匿名	0	0	0
合計	53	59	55

分析・課題

○令和5年度との比較で会員数6減、加入口数は17口減となった。会員の内訳は、団体数が6減（新規1減、継続5減）となっている。

現在サポーター会員として調布の市民活動を資金面から支えている市民とのつながりを保ち続けるとともに、新たにサポーター会員として調布の市民活動を応援しようという支援者を増やしていくための中間支援組織としての取組が求められている。

○市民活動支援センターイベント等の場を活用してのサポーター会員募集やサポーター会費のネーミ

4 市民交流事業の実施

(1) えんがわフェスタ 2025 の開催

結果の概要

○市民活動支援センター運営委員会で協議し、イベントを実施した。

実績等

名 称	えんがわフェスタ 2025 ～No one left behind 誰もあなたをほっとかない～		
目 的	地域や社会の課題に取り組む市民のために、学びや交流の場を創出することを目時とする。		
日 時	令和7年1月19日 10時～16時		
会 場	(第一部) 市民プラザあくろす1階コミュニティルーム前 (第二部) 市民プラザあくろす3階ホール		
参加者数	41人		
内 容	・第一部 お餅つき ・第二部 テーマ別の寸劇、グループワーク テーマ1 「おせっかいのさじ加減」(高齢者の孤立について) テーマ2 「モヤモヤから豊かなセカンドライフへ」(50代の社会参加について) テーマ3 「子どもと食」(子どもの食育について)		
主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

○41人の参加者(第2部参加者は29人)中、23人の参加者がアンケートに回答した。アンケート結果から、同イベントに参加して、立場や年代の異なる人たちの意見やアイデアを聞けたり、お話ができてよかった、寸劇がわかりやすく面白かった、テーマ選択がよかった等好意的な意見や感想が多く寄せられた。

○今後のフェスタで取り上げてほしいテーマとして、「青少年」「中高年」「防災」「ヤングケアラー」「ボランティア体験」「マイノリティ」「8050問題」「高齢者と子どもたちが一緒にいる空間」「男性の料理」「認知症」「栄養」「50代」「60代」「大人になってからの学び」といったキーワードが挙がっていた。

○第一部終了とともに帰ってしまう方がいるなど、イベントの時間設定が長すぎた様子。テーマにいかに関心を持ってもらえるかなど、広報の仕方についても再検討していく必要がある。

○このイベントで得られた気づきや学び、交流を今後のアクションにどうつなげていけるかを検討していく必要がある。

(2) 第11回調布まち活フェスタ

結果の概要

- 市長挨拶の実施、出展者の拡大をはじめ、広報の方法、子育て中の家族に焦点を置いた休憩スペースの設置など、新たな試みが多く持たれた。
- とりわけ、調布駅構内・市役所庁舎内2階のデジタルサイネージを活用し動画による宣伝を展開することができた。
- 実行委員会を9回、打ち合わせを10回、出展者会議を2回開催した。
- 当日は実行委員会に加え、以前の実行委員メンバーが運営に参加・協力という関わりを持つことができた。

実績等 <第11回調布まち活フェスタ・当日>

開催日	令和7年3月2日 10時～15時
会場	調布市市民プラザあくろす館内（2階・3階）、国領駅前広場
来場者数	約1,800人
参加団体数	39団体
協賛企業	国領商盛会，狩野タイル工業株式会社，特定非営利活動法人ちょうふこどもネット，株式会社THT マネジメント（プロバスケットチーム東京八王子ビートレインズ），おぎもと内科クリニック，株式会社ロジファクト，個人（2名） ※順不同
実行委員	18人
主催	第11回調布まち活フェスタ実行委員会
共催	調布市（協働推進課） 社会福祉法人調布市社会福祉協議会（市民活動支援センター）
目的	調布市内の市民活動の発展・活性化を図ることを目的に相互に交流や協働を育むこと。活動紹介や普及啓発、協力者やメンバーを募るといった周知活動に資すること。市民参加による「まちづくり」、「街のにぎわいづくり」を推進すること。
実行委員会	9回開催
出展者会議	2回開催

分析・課題

- 関係機関からの参加も増えてきており、次回以降、実行委員会への参加を働きかけるなど運営体制の強化を目指したい。
- 市民活動支援センターえんがわファンド助成金事業で支援する活動団体の参加もあり、イベント初となる休憩スペースの運営と意図せず交流が生まれていて、非常に良かった。
- クイズラリーは、パンフレット作成者とプログラム企画者が異なることで、仕掛けが複雑になり途中離脱者が相次いでしまった。また、ゴール地点で実施したアンケート回収にも支障が生じた。
- また、全体として実行委員会を①企画、②交流、③広報の部会に配属、それぞれの役割を遂行していくが、部会ごとの役割を再考するアイデアが挙げられた。
- 市民、行政、社協の三者による協働であることから、情報管理など難しい側面もあるが、半面で三者協働の良さも大きいので、それぞれの良さを際立たせたイベント開催を目指したい。

5 えんがわ文庫の運用

結果の概要

- 令和3年11月1日のオープンから3周年を迎え、少しずつ認知度が向上してきている。また、えんがわ文庫の利用を目的にした来館者も増えている。
- 棚主の活性化を目的に、既存の棚主の継続手続きと合わせ、新規の棚主募集を行った。生活状況の変化などを理由に本棚を返却した棚主もいたが、結果的に棚主は31人になり、当初から5人増加した。

実績等

- えんがわ文庫棚主交流会を月1回程度開催し、えんがわ文庫の活性化や棚主の交流促進について意見を出し合った。
- 棚主主催のイベントを開催し、えんがわ文庫を拠点とした地域住民との交流に取り組んだ。
- 有志棚主が、調布まち活フェスタでイベントを行った。

タイトル	実施回数	開催日時
親子の英語絵本おはなし会	11回	4月13日、5月18日、6月15日、 7月20日、8月25日、9月14日 10月20日、12月14日、1月18日 2月8日、3月23日
絵本いっぱい楽しみいっぱい	6回	5月6日、6月10日、7月8日 9月23日、10月14日、11月4日
本の交流会	4回	12月3日、1月8日、2月11日、3月9日

分析・課題

- 棚主交流会の継続的な開催や棚主交流ノート、SNSの活用により、棚主同士でアイデアを出しあい、新たな取組の提案を行うなど、えんがわ文庫に主体的に関わる棚主が増えてきている一方、主体的な関わりが難しい棚主もいることから、より多くの棚主が主体的に関わることができるよう、棚主の人たちと意見交換しながら創意工夫していきたい。

6 ボランティアコーナー（ブランチ）の運営

結果の概要

- 身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。
- 地域の方々によって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のブランチを運営しており、小島町コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

(1) 小島町コーナー

実績等

① 小島町コーナーの運営

項目	回数	参加人数	内 容
ボランティア活動室の貸出	随時		ボランティア団体の活動拠点として貸し出している。また、活動に必要な物品の保管場所として棚、メールボックスも貸し出している。
ボランティア保険の受付、取りまとめ	随時		ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。ボランティア保険は延べ4,008人、行事保険は延べ11,826人が加入。
使用済み切手等販売、売上報告の取りまとめ	1回/年		使用済みの切手やカード類を回収し、個人または各ボランティア団体に整理してもらい、業者に買い取ってもらう。それ以外にも、外国コイン、書き損じはがきの回収も行っている。その売り上げは、「えんがわファンド」の原資となり、令和6年度は111,550円を売り上げた。
無線LANスポット運営	随時	21人	総合福祉センター1階2階の全域で利用できるよう、無線LANスポットエリアを設置している。また、あくろす2階・3階共通のWifi導入に伴いSSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線LANを利用している。セキュリティ上、利用者は登録制にし、1年に1回パスワードを変更。
福祉機器の貸出	11回/年	500人(延べ)	研修等のために、車いす、高齢者疑似体験セット等の福祉機器を貸出。

② 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティア活動室利用 団体会議	1回/年	16団体 20人	利用ルール説明、定例利用日時枠の確認と棚等の希望調整を行った。団体間交流の場を図った。

③ 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
グリーンガーデン青樹	6回/年	約90人 /1回	毎月行われるお誕生会に、歌や演奏などを披露するボランティア団体を紹介。
はあと・ふる・えりあ	不定期		「はあと・ふる・えりあ」の利用者が織った布について、店内で販売できる商品作成の相談があり、ボランティア団体を調整し、紹介。
フローレンスケア調布	不定期	約60人	イベント時に催し物を披露するボランティア

			団体を紹介。
DEMAE 調布	1 回/月	約 30 人 /1 回	視覚や聴覚に障がいがあっても、映画鑑賞が楽しめるようなバリアフリー映画の体験会を、月 1 回開催。会場の確保などを支援。
すこやか	6 回/年	10 人	乳幼児に向けて演奏ボランティア団体を紹介。

④ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
出前講座 (小中学生対象)	17 回/年	1,425 人 (延べ)	障がいのある方との出会いとコミュニケーション、援助のボランティア体験や障がいの模擬体験を実施。
都立高等学校における教育活動支援業務の実施	2 回/年	480 人 (延べ)	平成 19 年度から、教科「奉仕」授業の一環として、また平成 28 年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必修教科の授業として、出前講座を実施。
市・職員研修（タソワッチングセミナー）	2 回/年	15 人 /1 回	市職員として 5～6 年目の職員を対象とした研修を支援。車いすやアイマスク装着など、疑似体験をしたり、今年度からは、聴覚障がいの方とのコミュニケーションとして、庁内窓口対応の研修を取り込み、公共施設等の利便性、安全性について確認。
スマホ交流会の開催	1 回/月	約 15 人 /1 回	小島町、布田近隣に在住の高齢者を中心に、災害時にも困らない様スマートフォン操作に慣れる事、近隣住民同士の交流のために、定例で交流会を開催。毎回地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、ボランティアと連携を取り企画。

⑤ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
調布市福祉まつり	1 回/年		調布市福祉まつりでは令和 6 年度、例年実施していた「車いす体験ブース」は設けず、ボランティア活動に関する情報提供の場を設ける、という形で参加した。 広く市民の方に、市内のボランティア活動内容についてお知らせする機会を提供。
下石原地区ふれあいのつどい（小地域交流事業）	1 回/年	200 人	小島町コーナーが担当となり、2 回目の参加。今年度は、実行委員会にも参加し、運営をサポート。

結果の概要

- 小島町コーナーが運営するボランティア活動室の貸出は、ボランティア団体の活動に欠かせないものとなっており、その利用もまた増えている。
- ボランティア活動団体が、引きこもりがちな高齢者の受け入れ先となるなど、本来の活動にとどまらず、居場所としての役割も担っている。
- 今年度は、今までボランティアの受け入れを検討していなかった高齢者施設からも相談を受けることが増え、施設からのボランティアニーズが高かった。
- 出前講座をはじめとする福祉体験を通じて、様々な機関と連携するとともに、市民の障がい理解の促進に努めた。
- 社協内連携については、全福祉圏域に地域支え合い推進員が配置されたことにより、その連携の中で小島町コーナーとしても地域との結びつきが深まっている。

分析・課題

- 各地域で開催されている、地域包括支援センターや地区協議会等が開催する会議への参加について、改めて検討したい。

(2) 菊野台コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
菊野台ボランティア交流会	1回/年	約50人	「菊野台ボランティアまつり」の終了を受け、関わりがあった団体、個人にお集まりいただき、資料や写真を使い、今までの開催内容を振り返った。
菊野台折り紙教室	4回/年	10人/1回	菊野台地域福祉センター内で折り紙の活動を行って欲しいとの声があり、講師を招き、「ふくしの窓」、チラシを用いて広報し、参加者を募った。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
菊野台折り紙クラブ	1回/月	約10人 /1回	「菊野台折り紙教室」の参加者から継続して開催を希望する声があり、定期利用団体として登録する支援を行った。
スマホ de サロン	2回/月	約15人 /1回	ボランティアが、高齢者のスマートフォン操作の困りごとを個別に聞き解決を図る。 相談者のスマートフォンを操作しなければならない場面も多く、個人情報に触れる機会もあ

			るため、会場に地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に参加することで、ボランティア、相談者双方の不安を解消し、トラブルを避けるよう努めた。
--	--	--	--

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
認知症予防運動と計測会	1回/年	30人	地域包括支援センター至誠しばさきと共催し、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に、高齢者に向けた運動プログラムの講座を開催した。
上ノ原まちづくりの会（地区協議会）ボランティア交流会	1回/年	50人	「上ノ原まちづくりの会」ボランティア、関係機関が互いに交流を深め、継続して円滑な活動が行えるよう努めた。

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
ウォーキングアプリを使ってみよう	1回/年	25人	高齢者の交流と健康維持のため、ウォーキングの会発足を視野に入れ、「スマホdeサロン」ボランティアの協力を得て、スマートフォンにウォーキングアプリを入れ、野川周辺のウォーキングを行った。
菊野台ウォーキングの会	5回/年	10人	カニ山、深大寺などのウォーキングを行った。
ウォーキング講座	1回/年	10人	東京都ウォーキング協会より講師を招き、正しい歩き方の基本を学んだ。
ラジオ体操講座	1回/年	20人	ラジオ体操の会発足を視野に入れ、全国ラジオ体操連盟より講師を招いた。
子育て講演会「イノチまるごと応援」	1回/年	10人	NPO 法人東京アグリが主催する子供の成長と自立について考える講演会。
小さな上映会「今日の明日も負け犬。」	1回/年	20人	てのひらドロップス主催による、起立性調節障害当事者の女子高生監督、学生チームによる映画の上映会。
薬局・薬の疑問解消講座	1回/年	30人	薬剤師を講師に招き、マイナ保険証やジェネリック医薬品などの疑問について話を聞いた。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域連携会議	6回/年	約8人/1回	地域包括支援センター至誠しばさき、調布ゆうあい福祉公社、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員による情報共有会議に参加。

結果の概要

- 「菊野台ボランティア交流会」は、参加者同士久しぶりに顔を合わせ歓談し、今までの開催内容や団体の活動を振り返ったことで、平成4年（1992年）から29回続いた「菊野台ボランティアまつり」の終了に区切りをつけることができた。
- 「菊野台折り紙教室」は、自閉症スペクトラム症で不登校の9歳の男児を持つ母親から参加希望があり、講師への相談、親子で事前に会場の見学を行うなど環境を整え参加できるよう努めた。その後定期利用団体「菊野台折り紙クラブ」となったが、9歳男児の参加が続いており、だれでも参加しやすい活動になるよう地域支え合い推進員に「ひだまりサロン」申請の相談をしている。
- 菊野台地域福祉センター内で活動する複数の団体に、地域住民が楽しみながら参加し、充実した活動が継続するように支援した。
- 社協内連携については、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と共に講座や新たな団体の立ち上げなどに取り組んだ。
- 会議への参加を通じて関係機関と情報を共有し、講座の開催や課題の解決に連携して取り組むことができた。

分析・課題

- 団体間の交流が少なく他団体の活動目的や課題を知る機会がないため、自身が所属する団体のみが優位になるよう活動しがちな傾向がみられる。

（3）富士見コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
コンサートと福祉のお話	1回/年	約19人 /1回	災害ボランティア経験者の体験談、ギターレ演奏と歌謡コンサート、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員による地域福祉活動計画の説明、調布市総合防災安全課の詐欺被害防止の啓発をチラシ配布で実施した。
みんなで進める災害対策 災害編 風水害編	1回/年	17人	調布市総合防災安全課による出前講座出前講座。コンサートと福祉のお話の参加者アンケートで受講希望の上位2つを実施した。
アルファ米の炊き出し 配布	1回/年	60人	消防大学校から寄付されたアルファ米を有効活用し、食品ロス削減と防災訓練に貢献した。初めて児童養護施設調布学園の職員と連携し、地域交流センターまんまるで実施した。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
門前そば打ちクラブ富士見会	1回/月	約28人 /1回	手打ちそばを試食会員に提供。地域交流の場となっている。コロナ禍明けの安全、安心な活動について相談支援。新規会員募集に協力した。
ふふ富士見	通年		居場所で活動するボランティアや参加者の紹介、えんがわだよりでのボランティア募集記事の掲載、ボランティア保険加入手続き、寄付物品等、支援を行った。
うたごえ喫茶 in 富士見	1回/月	約25人 /1回	ピアノの演奏に合わせて唱歌、抒情歌を歌い、参加者が交流するサロン。約4年ぶりに活動再開、富士見ふれあいのつどいにも参加。スタッフとの打ち合わせ、広報、歌集作成に協力した。
ふじみパトロール隊	通年		石原小、石原小地区協議会、ちょみっと等で使用する広報物の作成、寄付物品等の支援、都や市への連絡のサポートを行った。

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
子ども食堂かくしょうじ	2回/月	約100人 /1回	地域福祉コーディネーターと連携し活動を支援。ボランティア、寄付物品の紹介、見守り等を実施。むすびえの研修への協力、情報提供。
地域交流センターまんまる	1回/月	約10人 /1回	民生児童委員と手芸ワークショップを立ち上げた。小中学生を中心に手芸の基礎、簡単な小物づくりを行う。東京都地域公益活動推進協議会の取材があり、活動が動画で紹介された。
らんまんガーデン倶楽部	1回/月	約8人 /1回	地域支え合い推進員と、地域包括支援センターちょうふの里と連携し、高齢者を対象にした介護予防活動（園芸）を支援。立ち上げから1年が経ち、参加者も増え、交流が深まっている。
夏休みのラジオ体操	計32回	約35人 /1回	石原小学校地区協議会、健全育成石原地区委員会、石原小学校施設総合開放委員会、フードバンク調布、お米のシライ、有志が協力して実施。チラシ作成や、体操カードの紐の寄付物品提供に協力。
合同防犯パトロール	4回/年	約45人	石原小職員とPTA、石原小地域学校協働本部、調布中職員、ちょうふこどもネット、調布学園、皐月、石原小地区協議会、富士見町自治連合会、近隣住民、調布地区防犯協会、調布市総合防災

			安全課、調布市協働推進課、富士見児童館、調布市社会福祉協議会、富士見コーナー、わんわんパトロール隊、ふじみパトロール隊、石原小おやじの会、民生児童委員が参加。富士見コーナーはチラシ作成に協力。
わんわんパトロール	通年		調布市総合防災安全課と連携し、ボランティア募集、広報に協力。

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
富士見ふれあいのつどい (小地域交流事業)	1回/年	400人	・11月23日開催。小地域交流事業実施に向けて、舞台発表、模擬店、総務企画の3つの分科会に分かれて地域の団体、住民と準備を進めた。 ・つどいの方向性や企画案について実行委員会前に役員会を開催し、打合せを行った。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
石原小地区協議会	2回/年	30人 /1回	会議への参加に加え、広報活動に協力。地域との連携を深めた。

結果の概要

- 富士見コーナーが主催した講座について、取り上げたテーマの啓発促進に役立つと参加者、講師から好評であった。令和7年度以降も市や近隣団体と連携して講座を実施したい。
- 団体支援については、活動者の新規募集を実施。活動者が高齢のため縮小する団体の相談に乗った。今後も継続して伴走支援を行いたい。
- 関係機関との連携については、学校や団体との連携を通じ、防災、ボランティアに関する活動を通じて富士見コーナーの地域での存在感を高めることができた。
- 令和6年度も石原小地区協議会に参加した。

分析・課題

- 富士見コーナーでは地域団体や学校との連携を深めることができた。令和7年度は、CAPSや近隣の明治大学体育会などと更なる連携を図りながら、若年層のボランティア人材の発掘を試みたい。また、NPO 調布ハンディキャブと連携し、中高年層、高齢年齢層の活動者を増やせるように協力したい。調布市総合防災安全課や、調布警察署と連携して、警察犬のイラストを活用した啓発活動、わんわんパトロールや犯罪被害防止の広報などにも協力していきたい。

(4) 染地コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
ボランティアまつり染地 「そめち マルシェ」	1回/年	約 800 人	地域で活動しているボランティア・市民活動団体を中心に地域の若者から高齢者の交流の場として 29 回継続している地域に根づいたおまつり。高齢化が著しい染地地域にあって世代交代が緩やかに進むよう支援する。
バリアフリー 映画体験会・染地	1回/月	約 35 人 /1 回	高齢化が著しい染地地域において、高齢者の外出する機会とする。高齢者の気軽に立ち寄ることができる楽しい居場所づくりの取組。
染地 de ラ・ラ・ラ	1回/月	約 18 人 /1 回	一人暮らしの高齢者、高齢者世帯の方々からの「声を出したい」という要望を受け企画。脳トレを取り入れながらボイストレーニングそして声を出して歌う。日頃のストレスを発散する機会とする。
真夏のチャレンジ大冒険	1回/年	35 人	染地を拠点に活動している5つのボランティア活動団体に協力を依頼し実施した。 主に子どもを対象としたが、参加者は高齢者が多く、意外なニーズ把握に繋がった。参加団体の交流が深まりお互いの活動を理解、体験できた。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
シニアヨガ	1回/週	約 15 人 /1 回	コロナ禍で外出の機会を失った方々から「体を動かしたい」との要望を受け、立ち上げ支援する。貸出室やチラシ作成など継続して支援している。
手話サークル染地	2回/月	約 20 人 /1 回	染地在住の聴覚に障がいのある方と通訳者と一緒に手話の啓蒙、障がい者理解を目標にサークルを立ち上げた。地域で生活する障がいのある方と手話を学ぶことで交流が深まることを期待したい。
調布 SPV	2回/月	約 5 人 /1 回	2019 年浸水被害を受けた染地地域のアルバム写真の洗浄活動をきっかけに活動を始め、現在では、全国から洗浄依頼のある写真を請け負って活動をしている。貸出室や広報、寄付などの

			支援を継続して行っている。
小さな手	2回/月	約6人 /1回	メンバーの高齢化が進み存続が危ぶまれたが、メンバーの募集とその定着を継続支援している。
染地 be 助っ人 (びすけっと)	1回/月	約20人 /1回	子どもを取り巻く環境が著しく変化する中、孤食や悩みを抱える子どもたちの居場所づくりを目指し活動したいとの地域の方の要望を受け、立ち上げ支援した。貸出室の準備や広報、活動資金等々について話し合い、継続支援する。 ※フードバンクからの食材を活用したα米のおにぎりやお菓子の提供あり。
琴「かなで」	2回/月	4～5人 /1回	30年継続してきた琴仲間「染地」が解散。高齢になっても楽しくお琴を学び、仲間との交流を継続したいとの声を受け立ち上げを支援した。

③ 関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
染地筋トレ通う会	1回/週	約20人 /1回	地域支え合い推進委員、地域包括支援センターと連携し、加齢による機能低下予防を推進した。 継続する中で、参加者同士の交流が生まれ情報交換の場となっている。
染地パソコン教室&スマホちょっと相談室	2回/月	6人 /1回 (予約制)	地域福祉コーディネーターとの連携により、コロナ禍で孤立する高齢者に対し、1対1で対応する相談室を立ち上げ、参加者の受付窓口として継続して支援する。
調布市立杉森小学校	126時間 (63回) /123人	2～3人 /1回	「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け、杉森小学校 5・6年生の家庭科(ミシン縫い・調理補助)ボランティアを紹介、コーディネートする。概ね80代の高齢女性の活動の場として定着。小学生との交流に楽しみに参加している。
みんなのおまつり	1回/年		染地地区協議会主催イベント。地域福祉コーディネーター・支え合い推進員と共にポッチャで参加。染地地区協議会との連携を深め、調布市社会福祉協議会の広報活動の場となっている。また、三中吹奏楽部保護者会にバザーを提案し、売上を楽器修理費用として運用した。

④ 社協内連携

イベント名	回数	参加人数	内容
高齢者会食	2回/月		調理ボランティアや利用者を紹介したり、相談窓口となり高齢者会食運営を支援する。
ふれあい給食	8回/月		ふれあい給食ボランティアや利用者募集などについて広報の協力や講師を紹介した。

⑤ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
杉森地区協議会	7回/年	約18人 /1回	杉森地区協議会主催「防災訓練」等において協力。「ボランティアまつり染地 そめちマルシェ」においては協力いただく協力体制を構築する。
染地地区協議会	6回/年	約26人 /1回	染地地区協議会主催の防災訓練、防災講座・まつりなど様々な行事に参加、協力することで、より地域との連携を深めることができた。
地域ケア会議	2回/年	約20人 /1回	地域包括支援センターときわぎ国領主催の地域ケア会議に出席。高齢者の課題について関係機関と考え、情報共有の場となっている。

結果の概要

- 主催事業「ボランティアまつり染地 そめちマルシェ」については、高齢化が進む中、若者にも興味を持ってもらえるようなまつりを目指し、朝とり野菜販売に新鮮屋の声かけや舞台発表における若い世代への提案など声掛けをした。引き続き、世代交代等様々な問題に地域住民の協力をいただきながらより地域に根づいた「そめちマルシェ」を構築していく。
- 団体支援は、地域住民の要望を受けて新たに2つのサークルを立ち上げた。高齢者のみならず子どもとの交流、支援する中で見えてくる問題に丁寧に対応していきたい。
地域住民が自由な発想で意見交換する場であること、何より住民の声を反映したコーナーであることを目標に掲げて支援していきたい。
- 関係機関との連携は、新たな機関との連携により、多くの地域資源や情報を共有することができた。
- 会議については積極的に参加することができた。会議に参加することで、地域住民の課題や動向が具体的に見えてくる大切な機会となっている。今後も継続的に参加していきたい。

分析・課題

- コロナ禍で家に閉じ込められた高齢者が「外出する場」「情報交換する場」「仲間と交流する場」を求めて染地コーナーを訪ねてくる方が増えている。高齢者にとって、魅了ある活動団体となるよう活動団体への支援の仕方、広報等々に力を注いでいきたい。
- ボランティア団体の高齢化が著しい中、活動を継続するための相談が多くなってきている。団体の想いに寄り添いながら世代交代を進めていきたい。

(5) 緑ヶ丘コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい	2回/年	パート1 500 パート2 35人	11月4日開催。出店、舞台発表、バザー展示など行った。地域子ども・緑ヶ丘小PTA・八中PTAなどの参加もあり、世代を超えたまつりとして盛況であった。また、今年度は2月に参加団体間の交流を目的とした、「パート2」も開催。団体紹介、ゲームなどを通して、新たな繋がりができた。
バリアフリー映画体験会	1回/月	約35人 /1回	高齢化が進み機能低下が著しい緑ヶ丘地域において外出の機会とする。高齢者の居場所づくりの取組。地域での認知度も上がり、開催を心待ちにする声も聴かれるようになった。
手芸の時間「ふらっと」	1回/月	3～7人 /1回	地域でまだ活動先がなく、団体には入りにくさを感じる方や、一人暮らしの方などが、人との交流・おしゃべりを楽しむ場として開催。趣味の手芸をお持ちいただき参加。回を重ねるごとに緩い繋がりが育まれている。また、団体への活動参加も繋いだ。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
おしゃべりサロン	1回/月	約30人 /1回	毎月第2火曜日に開催。令和6年度より毎月の開催。歌やその曲に関する豆知識をスライドで投影し、歌を楽しみつつ、簡単な体操をおこなう。新しいボランティアも入り、地域で活動が新たに定着しつつある。
手話らんど&あいことば	4回/月	約5人 /1回	令和6年度は、エルシアホスピス仙川、グループホームきらら調布にて、手話のレクリエーションを繋ぎ、内容も好評だった。また、新しいメンバーが増え、活気が戻りつつある。
緑ヶ丘のお家 マオマオルーム	2回/月		地域の多世代の居場所として「サザエさん家のえんがわ」をテーマに、スタート。立ち上げまで地域福祉コーディネーター・地域支え合い推進員と連携して相談を受けた。一年目の団体ということもあり、ボランティアの定着、内容その他など課題もみえた。

③ 関係機関との連携

イベント名	回数	参加人数	内容
仙川オレンジカフェ	1回/月	約25人 /1回	つつじヶ丘地域包括支援センターと連携して団体を支援。開催内容や、当日運営の支援、振り返りや今後の活動内容の検討などを行った。

④ 会議への参加

会議名	回数	参加人数	内容
地域ケア会議	12回/年	約10人 /1回	地域包括支援センターつつじヶ丘・調布ゆうあい福祉公社・地域福祉コーディネーター・地域支え合い推進員・緑ヶ丘コーナーが参加。主に高齢者関連の地域における問題・課題について情報共有した。
緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	8回/年	約30人 /1回	運営委員の一員として参加。地域の問題・課題について共有した。

結果の概要

- 緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどいは、実行委員会を通じて、地域の諸団体と関わりを深められる機会となった。また、今年度再開した「パート2」では、今までなかった新しい試みとして、団体紹介・ゲームなどを通じた交流を図り、地域での新たな繋がりきっかけとなった。
- 団体支援については、既存の団体からの活動内容についての相談や、新しく団体を立ち上げたい旨の相談を受けた。
- 関係機関との連携については、会議などに積極的に参加することで、様々なことを相談し合える関係をつくることができた。

分析・課題

- 令和6年度は「気軽に立ち寄れる、相談ができるコーナー」という場所であるための雰囲気作りに重点を置いた。その結果、相談の内容もボランティアに関するものにとどまらず、生活における困りごとや、近隣の方が困っていることを代わりに相談に来るなど、関係機関に繋げる相談内容があった。引き続き、地域行事への参加・団体の支援を行なうことで、信頼関係・繋がりをさらに構築し、令和7年度も、地域ニーズとボランティア団体との接点、個人のニーズとボランティア団体や地域との接点を考察しながら支援に取り組みたい。
- 活動する団体メンバーの高齢化が進んでいる。しかし、高齢の方の中にも、新しい意欲でボランティアを望み、活動を希望する方がいるのも事実である。また、精神に障がいのある方が、地域で自分の特技を生かしてボランティアをしたいという相談も受けた。世代や、障がい等を越えて、活躍できる場がある地域作りに、コーナーとして何ができるのかを令和7年度は考えていきたい。
- コーナーの存在を知らない方が地域にまだまだいるため、引き続き周知を進めていく必要がある。また、どの世代においても、新しく訪れる方が相談しやすい、立ち寄りやすいコーナーであるよう、引

き続き努めていきたい。

(6) 西部コーナー

実績等

① 主催事業

項目	回数	参加人数	内容
第五中学校ボランティアダンス部 「心も体も温まる地域交流祭」	1回/年	69人	3月15日、第五中学校ボランティアダンス部の生徒達の協力により地域交流祭を開催。今年で9回目。受験を終えた3年生も加わり、進行、演出も生徒達自身が行う。ダンス披露だけでなく、イスに座りながらのラジオ体操、脳トレ等、観客も参加できるプログラムを企画。舞台終了後には、生徒達が希望者にハンドマッサージを行った。
「やさしい日本語」講座	1回	29人/1回	西部コーナーと西部公民館の共催講座として7月5日に開催。講師の吉開章氏を西部コーナーが紹介、会場は西部公民館。 外国人だけでなく、障がい者、高齢者、子ども、誰にとっても優しい「やさしい日本語」を地域の方々に知ってもらう。地域包括支援センターなど多様な機関の職員も参加した。 講座終了後には、講師を囲んで懇親会を行った。
ボッチャ体験会 「ボッチャ de わいわい交流会」	3回/年	20人/1回	正式ルールではなく的に入れて点を競う簡単なルールで開催。2チームに分かれて合計点数を競う。初心者も楽しめて人気の活動になっている。
バリアフリー映画体験会	6回/年	約30人/1回	奇数月に開催。多くの人に楽しんでいただくためのバリアフリー映画体験会を実施。懐かしい映画を見た後は昔の話題で会話が広がっている。高齢者の外出の機会となっている。
親子で楽しく 「ぼうさいかるた」 「ぼうさいNURIE」	1回	親子6組	3月23日開催。 目的は、子供も自分自身で命を守ることを考えるきっかけづくり。親子で楽しく防災について話し合う。 参加者は、親子6組 ・「ぼうさいかるた」で遊びながら防災・災害に関する言葉を知る。 ・市の防災マップ、水害マップで自宅と避難

			所の場所を確認。 ・「ぼうさい NURIE」避難所に持って行きたい物を5つを選び、ぬり絵をしたリュックに入れる。 地域ファシリテーター講座を受講した「かけふあし。」に協力していただいた。
コンサート&生活安全係のお話	1回	27人	1部は市の総合防災安全課生活安全係から「だまされないためのお話」 迷惑メールの対処法、屋根の修理の詐欺業者、詐欺電話に関して高齢者宅の強盗事件が粕江であったため皆さんの関心が高かった。 2部はショウケンさんの歌とギター伴奏。

② 団体支援

団体名	回数	参加人数	内容
電車っ子 party	1回	27人	3月9日初めて西部地域福祉センターで開催。 電車を通じて幼い子どもの保護者のつながりを作ることを目標としている。今回は、ボランティア希望の2人も参加。 親子8組25人、ボランティア2人。

③ 関係機関との連携

項目	回数	参加人数	内容
ふらっと喫茶	12回	約15人 /1回	「語る、学ぶ、繋がる」をテーマに青木病院認知症疾患医療センター、地域包括支援センター ちょうふの里、調布ゆうあい福祉公社が毎月1回共催している認知症カフェの運営に協力。民生委員にも協力いただいている。
青木病院デイケア			青木病院のデイケア担当者に協力。 切手整理、ペットボトルキャップ回収、散歩の途中に地域福祉センターに届ける社会貢献活動をデイケアプログラムとして取り入れることになった。 デイケア担当者から相談があり、体操希望の利用者にひだまりサロンの体操サロンを紹介し、参加。10筋体操にも参加するようになった。 社会復帰の一步となっている。
ふらっと			青木病院が地域の居場所として9月に開所した「ふらっと」の運営支援。月曜日から金曜日まで10時から16時まで地域の高齢者が安心して

			過ごせる場所となっている。 読み聞かせ、楽器演奏のボランティアを紹介。 参加している高齢者、デイケア利用者に西部地域福祉センターで開催されているバリアフリー映画体験会、ボッチャ、10 筋体操にお誘いして、行動範囲を広げる支援もしている。
--	--	--	---

④ 社協内連携

項目	回数	参加人数	内容
西部小地域交流事業	1 回/年	400 人	10 月 15 日、西部地域福祉センターにて開催。カラオケ、楽器演奏、ダンスなど多世代の参加があった。
高齢者会食			コロナ前に毎週開催されていた月 2 回に減らし、高齢化したボランティアの負担を減らすことになった。 高齢のボランティアの負担となっている会場設営の手伝いをしてきている地域福祉コーディネーターの相談対象者を支援。他のイベントのボランティアもお願いして、地域とのつながりを増やしていった。

結果の概要

- 第五中学校ボランティアダンス部「心も体も温まる地域交流祭」は、地域の高齢者と生徒達との世代を超えた交流となった。毎年恒例となっているハンドマッサージは、高齢者に喜ばれているだけでなく、大人と話す機会の少ない生徒達にも良い経験となっている。今回は、元部員の保護者、卒業生を含む 12 人のボランティアの方々がお手伝いをして下さった。先生方も応援に来てくださり、地域の方々が協力して作り上げた地域交流祭となった。
- 「やさしい日本語」講座を西部公民館と共催。外国人だけではなく、障がい者、高齢者、子どもにも優しい「やさしい日本語」は福祉枠の講座として開催され、地域包括支援センター、ゆうあい福祉公社、ケアマネ、第五中学校の地域コーディネーター、民生委員、他市の社協職員と多様な機関からの参加があった。講座終了後の講師を囲んでの懇親会では質問も出て関心が高いことが分かった。懇親会には、調布市職員対象の「やさしい日本語」の講師の永田氏も参加して下さった。
- 青木病院のデイケア担当者に協力し、切手整理ボランティア、ペットボトルキャップの回収活動がプログラムとして取り入れられる。デイケア利用者にひだまりサロンや 10 筋体操を紹介、参加することになり地域復帰につながっている。
- 地域福祉係、地域支え合い推進員と協力して、認知症によってふれあい給食の活動が難しくなった方の切手整理ボランティアへの参加支援、青木病院の認知症疾患医療センターの相談員と協力して本人だけではなくご家族の支援につなげている。引きこもり等の課題を抱えた方に高齢者会食の会場設営ボランティアや他のイベントのボランティアとしての参加を支援した。会食ボランティアからの信頼も得て、4 月からの就労につながった。
- 親子で楽しく「ぼうさいかるた」「ぼうさい NURIE」では、子どもたちが熱心に参加してくれてい

た。まだ本格的な活動を行っていなかった地域ファシリテーター「かけふあし。」の関係性の構築にも貢献できた。

分析・課題

- 認知症、引きこもりのかたがたの支援にあたり、地域の関係機関、民生委員、ボランティアの方々、地域の方々との連携により、良い結果が生まれていった。自己肯定感を得られ、地域と繋がるボランティア活動を紹介し、見守りを継続したい。
- 高齢者の活動支援が多かったが、今後は学童、児童館、保育園等とつながり、子ども関連の活動も増やす必要がある。

(7)野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機能	①ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	42人（うち役員12人）

実績等

① 総会・スタッフ交流会

① 日時	4月25日10時30分～正午
内容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和5年度事業報告・決算報告・監査報告 ・令和6年度事業計画（案）・令和6年度予算（案） ・令和6年度役員（案）
参加者	出席39人

② 野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	副代表	小阪井 真樹子	会計	磯野 幸子
会計	石川 規子	会計監査	柄澤 宏子	役員	平柳 千鶴子
役員	関口 邦子	役員	白石 明康	役員	谷宮 ノリ
役員	名和 静子	役員	渡辺 智恵子	役員	黒田 鈴子

○役員会を6回開催し、運営について話し合いを行った。

③ ボランティアスタッフによる独自活動

内 容	開催日時
絵を描こう会	第1・第3土曜日
手しごとの日（パッチワークの会改め）	第4木曜日
折り紙の日	第4火曜日
お直しの日	第2・4土曜日
やってみよう！	開所日の16時～17時
筆記の会	第1土曜日
ちぎり絵の日	第3土曜日
ふれあいランチ	第2土曜日
子ども食堂の活動応援	不定期
包丁研ぎ	第3土曜日

※その他…「ふれあいフェスタ北ノ台」「しごと場大好き」にて、ちぎり絵の展示を行った。

分析・課題

○8月には、感染症後初となる梅の湯商店会納涼まつり実行委員会へ参画・出店し焼きそば226人分を販売した。また同まつり内で、調布市が行うデマンド交通の普及啓発活動に協力をした。

○10月は「野ヶ谷の郷×梅の湯クラシックコンサート」を主催し、地域の高齢者を中心に他地域も含め、100人以上の参加者が来訪した。

○毎年行う、チャリティバザーでは自作した小物や持ち寄りの寄付品を販売し、約8万円の収益を得るとともに、社会福祉協議会へ寄付を行い、野ヶ谷の郷の運営助成金の半分ほどを返還した。

第2 情報・資料の収集及び提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

○ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行。

○令和6年度えんがわファンド助成団体の活動を中心に特集した。

○特集記事の作成にあたり、職員が様々な団体の活動の現場を見学・取材することで、紙面の充実と団体との関係性の構築につながっている。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 ・ボランティア活動などの市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。

	・市民活動団体の情報発信源となる。 ○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 ・社会課題に取り組む市民活動などを通して、地域社会の現状と、将来について考えていく。 ・さまざまなネットワークを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 ○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。 ・センター事業の報告などを通じ、センターの取組を紹介する。
発行日	隔月 15 日発行（4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、2 月）
発行部数	毎月 1,300 部
配布先	・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題の取組紹介など） ・ボランティア募集 ・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報など） ・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）

実績等

各号の特集記事の内容

号数	内容
4 月号（No.205）	よりよい調布のまちづくりへの参加～市民が市民の活動を支える「えんがわファンド」～
6 月号（No.206）	特集 仙川オレンジカフェ
8 月号（No.207）	居場所探訪プロジェクト どうやってそこは〈居場所〉となったのか
10 月号（No.208）	特集 たま川お手玉の会
12 月号（No.209）	特集 給食 Action 調布～子どもたちによりよい給食を～
2 月号（No.210）	令和 6 年度えんがわファンド助成実績報告

分析・課題

○読者のニーズに合った情報を提供できるよう、毎月多彩な情報を掲載するようにしている。

○ボランティア・市民活動に関する情報を必要とする人に届けられるよう、紙媒体に加えWEBによる発信を効果的に組み合わせて発信していく。

○サポーター会員に関する情報も盛り込むなど、寄付文化醸成の方針を反映した紙面づくりに取り組む。

2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

- えんがわだより 201 号以降、えんがわだよりオンラインへのアップロードを停止。
市民活動支援センターHP または他 SNS を活用し、情報発信していく予定である。

3 市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

- 多くの市民が市民活動に関わるきっかけとして活用するためのホームページを運営した。
○市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」、「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」と連動し、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。現在 334 団体がセンターの団体ページを公開している。（他に、活動休止、廃止などの団体の事情により、ページ登録中の非公開団体が 522 団体）

実績等

- ホームページの機能充実の影響もあり、外部リンク先の（※1）「調布市生涯学習情報コーナー」、（※2）「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」より、イベントページへ直接のアクセスが 33,249 件となり、前年度比で 5,000 件ほど増加した。
○技術躍進とともに、ホームページへアクセスしてからイベントを探すのではなく、イベントを直に探せることが主な理由と考える。

トップページのアクセス数（件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 4 年度	1,955	1,363	1,658	1,564	1,285	1,201	
令和 5 年度	1,354	1,346	1,761	1,804	1,407	1,273	
令和 6 年度	1,074	1,028	2,435	1,344	850	687	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間計
令和 4 年度	1,306	1,213	1,176	1,209	1,223	1,289	16,442
令和 5 年度	1,054	1,137	1,164	1,147	910	1,164	15,521
令和 6 年度	884	853	726	838	809	912	12,440

※アクセス解析で、Google アナリティクス（Web アクセス解析ツールの名称）は 30 分以内のアクセスは 1 アクセスとしてカウントしている

分析・課題

- 総合的にはアクセス数も増えているため、一定の情報発信は行っていると分析する。一方でトップページへのアクセスは少ないことから、情報が固定化していると分析する。えんがわだよりを中心に、情報更新を行う必要性を感じている。

- スマートフォンからのアクセス数が増加している報告を受け、パソコンのみでなく、タブレットやスマートフォンからも見やすい形式に改修を依頼中。
- 令和5年度より、ホームページ上に広報誌えんがわだよりが掲載できていない。広報誌とブログを一体的に運用していることが主な原因であるため、運用の変更を行い、適時・適切な情報発信を行いたい。

4 資料コーナーの充実

市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけとして、市民活動支援センター内に資料コーナーを設置している。

結果の概要

- 令和5年度、資料コーナーのレイアウトを変更し、カテゴリ分けを明確にしたことで、立ち止まって情報に目を向ける人が増加した。引き続き見やすく分かりやすいレイアウトや鮮度の高い情報が多くなるよう工夫している。
- ボランティアやNPO関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。

実績等

(1) チラシ等受入数内訳（令和6年4月～令和7年3月）

内容	令和6年度	令和5年度	分野	令和6年度	令和5年度
講座・講演	271	267	ボランティア・市民活動支援	218	195
イベント	132	121	福祉・保健	153	168
ボランティア募集	29	23	災害	19	24
スタディツアー・キャンプ	0	0	まちづくり・地域安全	37	45
寄付・募金	13	10	人権・国際協力・男女共同参画	72	64
団体・活動紹介	54	51	社会教育	32	20
スタッフ・メンバー募集	83	72	環境保護	20	28
助成金	34	40	文化・芸術・スポーツ	105	113
その他	46	62	こども	72	78
計	662	646	その他	65	72
			計	793	832

(部)

体裁	令和6年度	令和5年度
チラシ	551	532
ポスター	121	115
パンフレット他	56	68
計	728	715

(2) ニュースレター受入数内訳（令和6年4月～令和7年3月）
（部）

分野	令和6年度	令和5年度
ボランティア・市民活動支援	52	69
福祉・保健	45	42
まちづくり・地域安全	25	14
人権・国際協力	6	7
環境保護	10	8
文化・芸術・スポーツ	10	7
災害	4	2
こども	8	6
その他	7	7
計	167	162

(3) 定期購読雑誌の受入数内訳

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年6回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を 応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月2回

(4) 閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル
（件）

内容	令和6年度	令和5年度
市民活動支援、NPO 設立ガイド等	5	6
福祉関連	2	1
災害	1	0
その他	1	2
計	9	9

分析・課題

- 資料コーナーで情報を確認する人の増加が見られたため、センター入口の情報コーナーを拡大した。
- 拡大した効果もあり、多種多様なチラシの掲示相談がもたらされている。その一方で、チラシの入れ替えの時期や掲示可能なチラシとそうでないものの区別が難しくなっている点は次年度の課題である。

5 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

- 調布市報、J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ・ちょみっと）等の協力を得て、映像やラジオ、紙面など多角的な情報提供に取り組んだ。

○ふくしの窓では、毎号ボランティア情報等を「伝言板」として掲載している。

○センターの公式Xを運用し、タイムリーな情報提供を行っている。令和7年3月31日現在のフォロー
ー数は、897人となっている。

○公式LINEを運用。学生などの若者世代への情報発信および問合せに対応している。

6 市民活動団体リストの発行

結果の概要

○「令和5年・6年度市民活動団体リスト」を発行し、市内公共施設やセンター内で配架を行った。
掲載団体数は409団体。

○調布市生涯学習情報コーナーと協力し、生涯学習情報コーナー発行のサークルガイドブックを配
布し、令和6年度は500冊を増冊した。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

結果の概要

○市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなど、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

実績等

(1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

① 来館者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館 者数	2,912	2,834	3,148	9,656	3,049	3,519	10,757	3,658	3,227	3,190	3,387	5,093
一日 平均	100	94	109	322	105	121	359	126	120	118	130	170
前年 同月比	40%	105%	110%	323%	109%	117%	332%	112%	107%	107%	111%	117%

※令和6年7月 期日前投票期間

7月2日～7月6日 5日間 東京都知事選挙

10月22日～10月26日 5日間衆議院議員総選挙、最高裁判所裁判官国民審査

② 活動スペースはばたき・0A コーナー利用者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者	2,521	2,488	2,754	2,700	2,548	2,988	3,347	3,130	2,799	2,743	2,862	2,611
一日平均	87	83	95	90	88	103	112	108	104	102	110	87
前年同月比	135%	115%	117%	111%	111%	119%	126%	115%	111%	107%	110%	107%

③ 年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和5年度	令和6年度	対前年度比
来館者数(人)	41,451	54,430	131%
利用者数(人)	29,093	33,491	115%
相談件数(件)	925	995	108%

【利用者数内訳】

	令和5年度	令和6年度	対前年度比
活動、打ち合わせ、相談など	16,518人	17,970人	97%
パソコン利用	2,374人	2,221人	94%
学習	9,928人	13,026人	131%
印刷機	273人	274人	100%
合計	29,093人	33,491人	115%

	令和5年度	令和6年度	対前年度比
展示(壁面)	8件	13件	166%
展示(えんがわギャラリー)	15件	12件	80%
合計	23件	25件	109%

分析・課題

- 活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、近隣他市からの利用者も多い。駅からのアクセスも良く、利便性が高いようだ。令和6年8月からフリースペースはばたきのレイアウトを一部変更し、交流が生まれるように工夫した。
- パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多い。パソコン印刷については、他の利用者との混入を防止する対策を行った。
- 令和4年度から設けた「えんがわギャラリー」スペースは、センターやランチで活動している団体の発表や、つながり作りを目的としている。コンパクトなスペースだが、センター内の交流場所として認知され、賑わいがあつた。令和5年度と比べ、展示件数が減った。これは希望団体が、比較的長めに展示期間を希望する傾向があつたためである。展示については、期間中の休館日や期日前投票期

間など、しっかり考慮する必要がある。壁面展示については、希望者が増加した。
○ちょみっとの周知は行っているが、実際の利用が促進できていないため、普及啓発に努める。

(2) ボランティアコーナー（ブランチ）来所者数

拠 点	来所者数
小島町コーナー(週5日)	*ボランティア活動室利用者数 3,813人
菊野台コーナー(週3日)	2,356人
富士見コーナー(週3日)	4,446人
染地コーナー(週5日)	8,748人
緑ヶ丘コーナー(週3日)	4,998人
西部コーナー(週5日)	1,938人
合 計	26,299人

(3) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し（国領）

結果の概要

- センター内に設置しているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行っている。
- ロッカー・メールボックスの利用団体数は、令和5年度との比較でいずれも増加している。
- 倉庫2スペースは、13区画の全てが利用されている。

実績等

内 容	令和6年度	令和5年度
ロッカー利用団体	93団体	90団体
メールボックス利用団体	43団体	39団体
倉庫2空きスペース利用団体	16団体	16団体

分析・課題

- 年に1回の更新手続き、日々の鍵の貸出しなど、職員と団体が話をする良い機会となっている。引き続き、こうした小さな機会を大切にしていきたい。
- 倉庫2スペースについて、新規希望団体はなく、抽選は行われなかった。

2 電話対応代行サービス（国領）

結果の概要

- 市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付の支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。
- サービスの内容・流れについて内容を整理し、館内に掲示した。

実績等

利用料金	一件につき、月額 1,000 円（サポーター会員は 800 円）	
利用件数	令和 6 年度：延べ 13 件（6 団体）	令和 5 年度：延べ 28 件（6 団体）
サービス内容	行事・講座・講演会等への内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

分析・課題

○令和 5 年度との比較で、利用件数が半数以下に減少している。利用ニーズを把握のうえ、今後のサービスの見直しも含めて検討したい。

3 印刷機の設置・運用

結果の概要

○市民活動団体のイベントチラシや会議資料等、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習修了者であれば誰でも活用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター 1 枚につき 50 円、印刷枚数 500 枚につき 100 円の費用徴収を行っている。

実績等

利用実績	令和 6 年度	令和 5 年度
印刷機利用件数	142 件	151 件
印刷機利用者数	261 人	257 人
印刷講習受講人数（新規利用者）	6 人	11 人

分析・課題

○令和 5 年度対比で利用件数は減少したが、利用者数は増加している。

4 コミュニティルームの管理運営

結果の概要

○国領駅北ふれあいの家の廃止に伴い、同室を市民活動支援センターの一室に位置付け、地域活動等の場として継続的に利用可能とするため、令和 6 年 4 月 1 日から調布市からの委託によりコミュニティルームの管理運営を開始した。

実績等

	令和 6 年度
利用件数（人）	661
利用人数（人）	4,816

分析・課題

○管理運営委託前の令和 5 年度と比較し、利用人数が 1.8 倍に増加した。

○令和 6 年度市民活動支援センター利用者アンケート結果によると、コミュニティルームについて「知

らない」が43人、「知っている」が32人と「知らない」が「知っている」を上回っている。広報の工夫により利用人数が増える可能性もある。

5 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

- 「居場所探訪プロジェクト」を通じて市内外の居場所を訪問し、活動内容や運営実態についての聞き取り調査を行い、そこで得られた知見を市民と共有する機会として、居場所探訪プロジェクト報告会「どうやってそこはく居場所>となったのか」を開催した。
- NPO として活動している個人・団体で、助成金申請について興味のある方、学びたい方、社会貢献活動・NPO 活動で活動資金確保に課題を感じている方、広報担当の方を対象に、NPO 入門講座「NPO のための助成金申請講座」を開催した。
- 人材育成を通じて市民の自発的な地域活動の促進を図るため、「ボランティアをはじめとする地域活動とはいったいどのようなものか」、「その活動に参加することで何を得ることができるか」などを話題にし、地域活動について学ぶ地域人材養成講座「地域活動ことはじめ」を開催した。

実績等

プログラム名	開催日	回数	参加者数 (延べ)	講師・登壇者
居場所探訪プロジェクト 報告会～どうやってそこ はく居場所>となったの か～	令和6年 7月6日	1回	86人	室田 信一氏（東京都立大学准教授） 大木 智恵子氏（彩ステーション） 熊谷沙羅氏（川の図書館） 田中 東朗氏（POSTO）
NPO 入門講座 「NPO のための助成金申 請講座」	令和7年 2月22日	1回	20人	森 玲子氏（東京ボランティア・市民 活動センター）
地域活動 ことはじめ	令和7年 3月22日	1回	15人	大町 恵子氏 西村 達也氏

分析・課題

- 居場所探訪プロジェクト報告会の参加者アンケート 74 人中 53 人から回答があり、33 人が「大変満足」19 人が「満足」の回答であった。参加者の年齢層は 30 代～90 代まで幅広く 50 代が最も多かった。令和6年度の運営委員会では「50 代」の抱える地域課題を焦点の1つに当てており、その年代にとって居場所を考えるきっかけになったのではないかと考える。
- NPO 入門講座「NPO のための助成金申請講座」を受講した参加者からは、助成金の申請方法のみならず、助成金の全体像、NPO のあり方や目的等の重要性を学ぶことができたとの声が寄せられた。
- 令和7年度えんがわファンド助成申請を検討中の団体からの参加もあり、助成金申請前に本テーマについて学ぶ機会を設定できたので、今後の助成金申請や団体運営にどう反映されるか注視したい。

6 不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

結果の概要

- 使用済み切手、カード類の回収は、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。
- 回収する物を示すチラシを作成する事に加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。

実績等

種 類	売上金額（円）	換 金 日
通常切手 記念切手類	¥36,000	10月16日
書き損じはがき	¥21,800	
使用済みカード類	¥15,750	
外国コイン	¥37,500	
その他	¥500	
計	¥111,550	

7 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業である。（平成18年度より実施）
- 幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的として実施。
- 市民ファンドとして、市民や企業からの寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。

実績等

(1) えんがわファンド選考委員会

① 選考委員会の開催状況

開催日	6月2日 13時～18時
会 場	市民プラザあくろす3階
内 容	応募団体15団体を書類審査により14団体に助成決定

② えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

◎水田 征吾	市民活動支援センター運営委員長
南條 勉	ちょうふチャリティーウォーク実行委員

旗野 貞夫	八王子市市民活動支援センターNPO さぼーと 802
村上 むつ子	市民活動団体（Global 調布！）
大槻 昌美	企業・労働組合（非営利型株式会社 Polaris）
田村 敦史	市民活動支援センター長

(2) 助成先団体 計 14 団体 助成総額 923,001 円

【令和6年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	調布市難聴者体操の会	100,000	聴覚に障害がある人も楽しめる体操の場づくりのための要約筆記謝礼、講師謝礼。
2	ちょうふ読み語りの会	65,550	地域の高齢者や子どもたちへの読み聞かせ、紙芝居を行うための紙芝居舞台の購入費、勉強会のための室料。
3	電車っ子Party	100,000	父親や子どもが親しみを持ちやすい鉄道をテーマにしたイベントのための玩具・書籍・文具代、講師謝礼、広告宣伝費、会場費の一部。
4	一般社団法人えねこや	62,950	脱炭素社会に向けた「持続可能で豊かな省エネルギー型の暮らし」への啓発活動のためのリーフレット作成費、ワークショップ材料費、講師謝礼、総会の講師謝礼。
5	デジタルペイントハウス	64,023	孤立している、不安を抱えている子どもや若者に対して、デジタルイラストを通じた居場所を提供するための会場費、機器の購入費。
6	給食Action調布	60,035	古来より受け継がれてきた伝統的な和食をテーマにした映画の上映費用の一部、会場費、講師謝礼金、広告宣伝費。
7	たま川お手玉の会	29,493	伝統文化のお手玉、昔遊びの継承・体験活動のための材料費、広告宣伝費。
8	はちみつルーム	100,000	様々な年齢や背景を持った一人ひとりにとって、利用しやすく、安心感のあるくつろぎの場を運営するための活動補助費、広告宣伝費、消耗品費の一部。
9	地域環境科学研究所	100,000	湧水を含めた野川流域の水環境調査、子どもたちへの保全啓蒙活動を行うための水質調査機器、水質調査キット/ろ紙、採水・分析用ボトル購入費、助手謝礼金。
10	ワンツース曜会	70,000	地域の高齢者とともに転倒予防体操を定期的に行うための講師謝礼、教室の利用料金、雑費の一部。
11	NPOつなぐ	0	市民が求めている生活支援を幅広く提供することを目指し、人と支援とを“つなぐ”ためのチラシ作成、印刷費。

12	minglelingo(みんぐるりんご)	80,000	飛田給地域の居場所「トビバコ」の終了（令和5年2月）に伴い、そこで得られた知見を冊子化するための編集費用の一部。
13	緑ヶ丘のお家マオ・マオルーム	25,590	子どもの異年齢交流、子育て世代の交流、高齢者世代の交流を目指した居場所運営のためのチラシ作成費、イベント謝礼金、施設利用料、活動費。
14	生きづらわーほりプロジェクト	65,360	生きづらさを抱える人の語りの場「ちょうふのこやど」の運営および、イベント（ハート to ハートちょうふ懇談会）開催のための会場費、印刷製本費、消耗品費、謝礼。
	合 計	923,001	

(3) 財源（寄付金等）

実績等

令和6年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	令和6年度	令和5年度	令和4年度
サポーター会費	207,000 円	259,000 円	192,000 円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	177,147 円	214,314 円	206,537 円
指定寄附	113,394 円	168,305 円	228,477 円
リサイクル益金 (使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯)	111,550 円	57,360 円	356,823 円
市民活動支援センター募金箱	22,274 円	35,507 円	0 円
合計	631,365 円	734,486 円	983,837 円

分析・課題

○えんがわファンドを基盤とした団体支援の充実を図るため、助成金の交付と合わせ、継続的な相談関係を築くことが重要である。

○指定寄付においては、前年度は退職者の寄付による影響が大きいため、それを除くと同等と言える。

○リサイクル益金は、義歯の回収状況によって業者が来訪するため、年度ごとに金額に差が生じ易い。

○総じて、寄付や寄付者に対し、目的の明確性、使途の透明性、名前の遺し方が課題と感じている。

第4 ボランティア・NP0・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

○相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

(1) ボランティア団体登録状況

○情報登録団体 409 団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体 133 団体

○市内を活動拠点とするボランティア団体で、調布駅周辺で活動する団体が、小島町コーナーに登録。情報登録団体と重複している団体は多い。小島町コーナー登録団体は、年間通してボランティア活動室を定期利用でき、総合福祉センターの印刷機は無料で利用が可能。定期利用団体は、活動室内の棚やメールボックスの利用も可能となっている。

(2) ボランティア活動状況

結果の概要

○保険加入者数 4,008 人（令和5年度 3,998 人）

○個人で活動するボランティアは登録制度をとっていない。その為、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入者数が実態に近いと考えられる。この中には、施設等で長年継続して活動されている方等、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○令和5年度に引き続き、多くの福祉施設からボランティアの募集希望が寄せられ、演奏披露のような活動を複数回コーディネートした。

○社協事業に関わる活動については、高齢者会食、ふれあい給食など食事提供を伴う活動が徐々に再開され、調理ボランティアはもとより利用者の募集についても広報等で協力した。

○自宅でもできるボランティア活動として、切手整理の活動（仕分けや束ね等）や、雑巾縫い等に、令和6年度も多くの方が取り組んだ。

○特別支援学校に通う子どもの送迎は、年間通して活動があった。障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、朝の登校時の付き添い等、場面は様々である。また送迎は、対象は児童生徒に限らず成人の送迎も引き続き支援した。

実績等相談件数

拠点	小島町	菊野台	富士見	染地	緑ヶ丘	西部	国領	合計
相談件数	7,228 件	184 件	401 件	2,665 件	257 件	365 件	995 件	11,100 件 (12,095 件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

分析・課題

○障がい児・者の送迎依頼は、「放課後等デイサービス」を利用する児童生徒を学校から施設まで、デイサービス終了後、自宅までの依頼など相談があり、それに対応した。その他、特別支援学校へ通う登校時の見守り等の依頼にも対応。毎週の支援や、週に数回の支援が必要なケースもあるため、一人の児童生徒に対し、複数名のボランティアで対応するケースも多かった。

○調布市の場合、特別支援学校の登下校や放課後等デイサービスなど、施設への通所で、移動支援サービスが利用できない。小中学校の支援学級に通う場合も、送迎バスがない。特別支援学校の場合、高校生からは府中まで通学となる上、送迎バスの利用ができないケースも多い。そのため、家族で送迎するか、もしくはボランティアの支援に頼らざるを得ない状況が続いている。このような状況は、家

族への負担を大きくしている一方で、公共機関を利用し、徒歩で通学することが障がい児の成長過程でよい刺激になるほか、同じ地域の市民に対して、障がい理解のきっかけを生む働きかけができると考えられる。

- ボランティアは、障がい児・者支援の経験が無い人がほとんどではあるが、一緒に歩き通学を見守る中で、障がい児自身が発達・成長をしていく過程を共に支え、見守る人になっていく活動である。
- 令和6年度も引き続き、各地域で高齢者のスマートフォン操作に関する相談が多くなっている。地域性に合わせたスマホ講座や相談を立ち上げ、継続的に実施する中で、必要最低限の情報収集や人とのつながりが維持できるよう、工夫しながら取り組む必要がある。
- センターや各コーナーにおける多様な相談対応やボランティアコーディネートに伴い、相談件数の算定方法が拠点により異なる部分があるため、令和7年度以降相談件数の算定方法について見直しを行う必要がある。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

結果の概要

- 市民の社会参加を促し、市民活動を担う人材の発掘を目的に、ボランティア・市民活動に参加したい人や知りたいという人を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各コーナーで開催した。

実績等

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ
小島町コーナー	8月22日	4人	2人
	1月15日	1人	2人
市民活動支援センター(国領)	6月5日	1人	1人
	3月22日	6人	1人
富士見コーナー	11月30日	1人	1人
菊野台コーナー	9月19日	0人	1人
染地コーナー	4月27日	0人	1人
	10月9日	0人	1人
緑ヶ丘コーナー	10月14日	0人	1人
西部コーナー	7月12日	1人	1人
	2月20日	3人	2人

分析・課題

- 原則としてボランティア希望があった場合、参加者の個別性やニーズに合わせた形（来訪ならその場で、電話であれば一両日に）でボランティアの説明・マッチングを各コーナーで随時行っている。
- このため、ボランティアガイダンスの参加は総じて多くはならないという背景が存在している。本来的にはボランティア希望者のニーズに合わせた個別的対応を無数に行っているにも関わらず、数字に残らず例年、少ない参加者を報告している点がまさに課題と言える。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

○「寄附文化を醸成する」「企業、行政、教育機関、NPO、各種市民団体の協働の機会をつくる」「地域活動参加のきっかけとなる」を目的とした活動で、平成20年の発足時より開催に協力する。企画・運営は、実行委員会が担っている。

実績等

(1) ちょうふチャリティーウォーク 2024

開催日時	10 月 26 日 10 時～16 時		
コース・会場	ウォークラリーコース（約 8.1 キロ）：国領駅前広場（スタート） → 野村證券 → 布多天神社 → KDX 調布ビル → 深大にぎわいの里 → だるちゃんのおうち → 神代植物公園 植物多様性センター → 深大寺 → 神代・佐須地域農業公園 → 祇園寺 → 国領駅前広場（ゴール）		
参加者	500 人	参加費	高校生以下 100 円
スタッフ	約 60 人		大人 500 円
主 催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共 催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後 援	調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市スポーツ協会 調布市公立学校 PTA 連合会		
チャリティー金額	177,147 円（当日参加費のみ）		

分析・課題

- 過去最長のコース編成となったが、当日は天候に恵まれず、小雨もあり冷え込んだことも影響し、参加者数に伸び悩む形となったが、会場内に設けた特設ブースで飲食や体験ゲームをする方が多くみられた。
- また、行政経営部企画経営課（調布スマートシティ協議会事務局）の広報に協力を行い、市が取り組むアプリ「お出かけ情報サービス」の利用促進に向けた普及啓発活動に協力した。
- 参加者アンケートによると、イベントの認知度が向上し、リピーターが増加していることが伺えた。

2 調布市市民プラザあくろす内の連携

結果の概要

- 多様性社会男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会と連携し、あくろす全体での取組の調整や情報共有を行った。

実績等

- 「あくろす連絡会議」(月1回)に出席し、情報交換を行うとともに、必要に応じて情報交換を行った。
- 市民プラザあくろすの20周年を記念して、2月に行われた「あくろすフェスタ」に3センターとも参加。運営補助を行った。

分析・課題

- 日頃から情報共有や相談ができる関係性を構築できたため、円滑な連携ができています。

3 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

- 令和6年度は幹事市として会議を企画・進行。共催事業は行わず、数年来課題となっているブロック社協間での災害時協定締結や学習会を行った。

(1) 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	4回
参加者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]
内容	災害時協定の締結、キントーン学習会

分析・課題

- ブロック社協間での災害協定締結を踏まえ、発災した際のシミュレーションを行うなど、より具体的な連携が求められる。

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

結果の概要

- 小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修等に対応した。

実績等

出前回数	19 回	出前先	小学校	14 回
受講生	延べ 1,665 人		中学校	1 回
派遣スタッフ	延べ 99 人		高等学校	2 回
			関係機関	2 回
開催講座数	80 講座 (内訳：手話 11、視覚障がい者ガイド 23、点字 12、車いす 19)			

分析・課題

○令和6年度に入っても、コロナ禍の時の影響を受け、令和5年度の実績がないために、実施を検討する学校が少なかった。コロナ禍前に比べると、その実績は半数にとどまっている状態が続いている。令和7年度以降、実績数が増えていくことを期待したい。

2 調布サマーボランティア 2024

結果の概要

- ボランティア体験プログラムを中心とした46の体験プログラムを実施した。
- 新規活動先15プログラムを増加。
- ガイダンス用動画を作成。集会形式ではなく、参加者全員に事前面談と動画視聴によるガイダンスを実施した。
- ボランティア活動当日には職員が活動先を訪問し、振り返りに同席しフォローアップを行った。
- 参加者は、自身の活動の振り返りとしてGoogleフォームで活動報告を提出。活動先へのフィードバックとした。
- 調布サマーボランティア活動報告BOOKを作成し、体験者、団体・施設両者のメッセージを掲載。団体・施設は体験者からのメッセージを通じて体験者の想いを知ることができ、体験者は自身の活動を振り返る機会となった。

ボランティア体験プログラム実績等

申込み	期 間	6月29日～7月12日 9時～17時	
	内 容	・ ボランティア体験プログラム	
参加者人数及び活動別内訳	参加者総数	360人（男性 84人 女性 276人）	
	年齢層内訳	小学生 36人 中学生 140人 高校生 123人 大学生（短大含む） 25人 社会人 27人	
協力団体・施設	団体（寄付受付を含む）	内 訳	
		高齢者関係	7団体
		障がい者（児）関係	8団体
		医療・保険関係	11団体
		国際関係	1団体
		環境関係	3団体
		その他	10団体
期間	体験期間	8月1日～8月31日	

分析・課題

○感染症対策を行いながら実施した。感染症罹患のため活動に参加できない、または振替をおこなった参加者がいた。

- 小学生の参加が大幅に増加した。
- プログラム終了後に、活動先団体でボランティア活動を継続した方が複数いた。
- プログラム後のアンケートでは、ボランティア活動の前と後で、新しい気づきや変化があったと回答した方は 82.3%、「ボランティアを継続したい」をしたいと回答した割合は 90.8%であった。
- 活動報告 BOOK を、すべての参加者および活動先に送付。次の活動につながるよう動機づけを行った。また、市内中学、高等学校の学校長宛へも送付し、センターの取組について周知する働きかけを行った。

第7 職員の派遣・研修 他

1 他団体等への職員派遣

結果の概要

- 関係機関から参加を依頼された会議については、可能な限り参加し、情報収集と関係作りに努めた。
- 慈恵医大第三病院看護学科の授業「ボランティア論」では、講師や実習の調整に加え、職員がスピーカーとして登壇し、ボランティアに参加するための基本姿勢や活動の紹介などを行った。

2 職員研修

結果の概要

- 東京ボランティア・市民活動センターをはじめ北多摩南部ブロックなど、様々な機関が主催する研修に参加した。
- 内部研修として個人情報保護についての研修を実施し、職員一人ひとりの法令遵守意識の向上を図った。自分たちが日常の業務で取り扱っている情報がどのようなものなのかについて再考する機会となった。

3 視察対応

結果の概要

- 施設見学については、えんがわ文庫の見学依頼が複数あり対応した。
- 他自治体社協からの視察依頼も複数回あり、その都度対応した。

第8 調査・研究

結果の概要

- 令和5年度に続き、市民活動支援センターの利用者にアンケート調査を実施した。100部配布し75人分のアンケートを回収した。
- センターを利用しやすいと感じているコメントとして、駅から近く、メンバーが集まりやすいという意見が多数あった。また、無料で集まれる場所として、活用されていることや、多彩な団体が利用していることもあり、出会いの場としてとても意義のある場となっている。

○学生からは「勉強に集中できる」という意見をもらった。

○つながりを絶やさぬよう、工夫しながら仲間との関係を維持している団体が多い。

分析・課題

○団体の代表が高齢なことも多く、後継者育成の必要性を感じる。

○平均年齢の高い団体が多数を占める。若年層、中年層世代をターゲットとした啓発や新規団体発足等の取組も検討したい。

○当面の活動に心配がない団体でも継続的な接触を図り、いつでも寄り添えるセンター運営に努めたい。

第9 災害対策・支援（重点項目）

1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

○市と社協とで締結した「災害時における調布市の対応への協力に関する基本協定」、「調布市災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する覚書」を踏まえ、市の総合防災課と災害ボランティアセンター開設訓練に向けた協議を行うべく、令和4年度からの検討課題について整理を行った。

○調布市社会福祉協議会、三鷹市、府中市、小金井市、狛江市の5市社協間で「北多摩南部ブロックにおける災害ボランティアセンターの設置・運営に関する相互応援協力協定」を締結した。災害ボランティアセンターを設置、運営するうえで必要な応援協力が円滑に行われるよう、相互応援協力に必要な事項の取り決めを行った。

分析・課題

○災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定し、より具体的な準備ができるよう、行政をはじめ関係各所と協議を進める必要がある。

2 調布市災害ボランティアセンター

（旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

○調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上やフェイスブックで情報交換している。

○当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間1回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

○災害時にすぐに運用が開始できるように、サイトの維持管理は行っている。

○サイトの脆弱性については、安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要があるが、予算の都合上1回の実施となっている。